

使いこなすために

このパソコンならではの機能のご紹介や、このパソコンを使いこなすための細かい設定方法などを説明しています。

Windows Hello	2
スリープ／休止状態	6
ディスプレイ	13
サウンド	24
通信	33
アプリ・ドライバー	51
BIOS の設定	56

Windows Hello

Windows 11 には、顔を使ってサインインできる Windows Hello という機能が搭載されています。Windows Hello を使うと、サインイン用のパスワードや PIN をいちいち入力する必要がなくなります。

Windows Hello を使って顔認識でサインインする

顔認証対応フロント Web カメラ搭載機種のみ

カメラの位置は「各部の名称と働き」をご覧ください。

■ Windows Hello の顔認識機能をお使いになるうえでの注意

- Windows Hello の顔認識機能は完全な本人認識・照合を保証するものではありません。
- Windows Hello をお使いになるには、PIN を設定しておく必要があります。
- カメラによる顔認識を設定している場合でも、パスワードや PIN の入力でサインインすることができます。また、顔認証でサインインできない場合も、同様にパスワードや PIN の入力でサインインしてください。
- Windows Hello で登録した顔情報は、パソコンにのみ保存され、インターネット上にアップロードされることはありません。
- 顔の登録および顔認識でのサインインのときに適切な顔の位置は、パソコンの正面でパソコンからの距離が約 30cm から 1m です。
カメラが顔を認識できるように、必要に応じて液晶ディスプレイの角度などを調整してください。
- Windows Hello の顔認識機能は赤外線を使用しています。次のような環境では、顔認証が正しく検出できないことがあります。
 - ・ パソコンの顔認証対応 Web カメラや顔に直接日差しが当たる場所
 - ・ 晴れた日の屋外や窓際など正しく検出するために上記の場所での使用を避け、直接日差しが当たらないようにカーテンなどで日差しを遮ってください。
また、窓際で使用したり窓に向かってパソコンを設置したりすることは避けてください。
- 赤外線を含む電球（白熱電球など）を使用している場合は、パソコンの顔認証対応 Web カメラや顔に電球の光が当たらないようにしてください。
- パソコンの顔認証対応 Web カメラの発光部を長時間見つめないでください。
- 顔の登録および顔認識時は、Web カメラ状態表示 LED が白く点灯します。
- 本装置に搭載されているカメラは顔認証に最適化されたカメラです。カメラの視野に人の顔がある場合、人の顔に対して優先的に露出補正を行います。そのため、周囲の明るさと人の顔の明るさの差が大きい場合、人の顔の露出は適正になりますが、周囲の露出は適正でない状態で撮影されることがあります。

■ 顔を登録する

Windows Hello の顔認識機能をお使いになるときは、次の設定を行ってください。

- 1**   (設定) ▶ ①「アカウント」の順にクリックし、②「サインイン オプション」をクリックします。



- 2** ①「顔認識 (Windows Hello)」▶ ②「セットアップ」の順にクリックします。

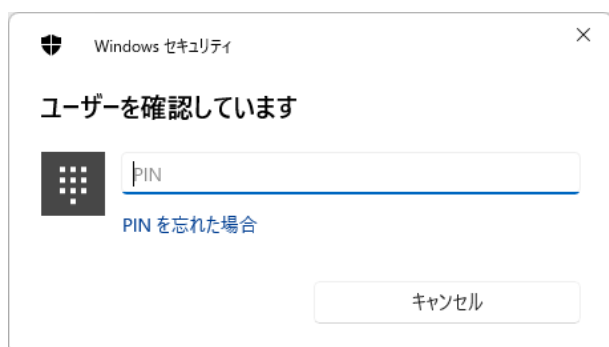


- ▶ PIN を設定していない場合、「PIN (Windows Hello)」をクリックして PIN を設定してください。

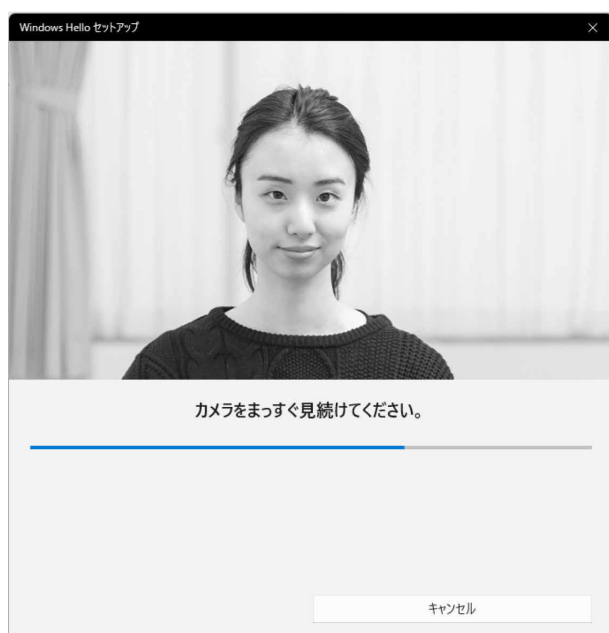
3 「Windows Hello セットアップ」 ウィンドウで「開始する」をクリックします。



4 画面の指示に従って、PIN を入力します。



5 画面の指示に従って、顔を登録します。



6 顔の登録が完了したら、①「閉じる」をクリックします。

必要に応じて②「精度を高める」をクリックします。



Point

- ▶ 「閉じる」をクリックした後も精度を高めることができます。手順 2 の「サインインオプション」の画面で「顔認証 (Windows Hello)」をクリックし、「認識精度を高める」をクリックし、再度顔認識を行ってください。

■ 顔認識でサインインできるか確認する

1   (アカウント名) ▶ 「ロック」をクリックしてロック画面を表示します。

2 顔を適切な位置に移動し、サインインできるか確認します。

Point

- ▶ サインインできなかった場合は、画面の指示に従って、PIN を入力してサインインし、顔の登録をやり直してください。

スリープ／休止状態

Windows の省電力機能を使用すると、パソコンを待機状態にしているときに消費電力を抑えることができます。ここでは、省電力機能のうち、「スリープ」と「休止状態」について説明しています。

スリープ／休止状態とは

ご購入時の設定では、一定時間パソコンを操作しないと、自動的にスリープになるように設定されています。

モダンスタンバイに対応していない機種の場合、ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過すると、自動的に休止状態になるように設定されています。

手動でスリープにする操作については、「取り扱い」－「電源の入れ方／切り方」－「スリープにする」および「スリープから復帰させる」をご覧ください。

- スリープ

作業中のデータなどをメモリに保存してパソコンを待機状態にすることです。そのため、電源プラグがコンセントから抜けると、元の状態に復旧することができません。

- 休止状態

作業中のデータなどをストレージに保存して、パソコン本体の電源を切ることです。そのため電源プラグがコンセントから抜けたりしても元の状態に復旧することができます。

スリープに比べると、待機状態にしたり復帰（レジューム）したりするための時間は長くなりますが、消費電力は削減されます。

■ 休止状態にする

1 ▶ (電源) ▶ 「休止状態」の順にクリックします。

ディスプレイの表示が消え休止状態になります。



- ▶ 「休止状態」が表示されていない場合は、次の手順で設定を変更してください。
- 1.  ▶ 「すべてのアプリ」▶ 「Windows ツール」の順にクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックします。
- 2. 「ハードウェアとサウンド」▶ 「電源オプション」の順にクリックします。
- 3. 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、左側にある「電源ボタンの動作の選択」をクリックします。
- 4. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
- 5. ウィンドウの下部にある「休止状態」の ☐ をクリックして ☒ にします。
- 6. 「変更の保存」をクリックします。
- 7. 「電源オプション」ウィンドウを閉じます。



- ▶ 電源ボタンを押したときや、ディスプレイを閉じたときに休止状態に切り替わるように設定を変更することができます (→P.9)。

スリープ／休止状態にするうえでの注意

- パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止、復帰（レジューム）に時間がかかる場合があります。
- スリープや休止状態にした後、すぐに復帰（レジューム）しないでください。必ず、10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。また、再度スリープや休止状態にする場合は、復帰（レジューム）させた後、必ず 10 秒以上たってから、スリープや休止状態にするようにしてください。
- スリープや休止状態に移行するまでの間、USB マウスや USB キーボードなどの周辺機器を操作しないでください。復帰（レジューム）した後、周辺機器を正しく認識しなくなることがあります。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。
- スリープや休止状態、復帰（レジューム）のときに、画面に一瞬ノイズが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- スリープ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- ネットワークの設定によっては、スリープ中に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスの有効期限が切れると、パソコン本体がスリープから元の状態に戻ることがあります。
この場合は、IP アドレスの有効期間を延長するか、DHCP の使用を中止して固定 IP をお使いください。

- 次の場合は、自動的にスリープになりません。
 - ・ Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) や DVD などの動画再生時
- 次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ パソコンが何か処理をしている最中 (プリンター出力中など)、および処理完了直後
 - ・ ストレージにアクセス中
 - ・ オートラン CD-ROM/DVD-ROM (セットすると自動で始まる CD-ROM/DVD-ROM) を使用中
 - ・ ビデオ CD や Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ)、DVD などを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ ディスクにデータを書き込みまたは書き換え中
 - ・ ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
 - ・ マウスの操作中

ディスプレイの電源を切る、スリープになるまでの時間を変更する

次の手順で表示する画面から、ディスプレイの電源を切るまでの時間、スリープになるまでの時間を変更できます。

この方法は簡易的な方法で、「電源オプション」ウィンドウで選択されている電源プランに対してのみ変更を加えることができます。詳細な設定変更をしたいときは「スリープ／休止状態の設定変更」(→P.9) をご覧ください。

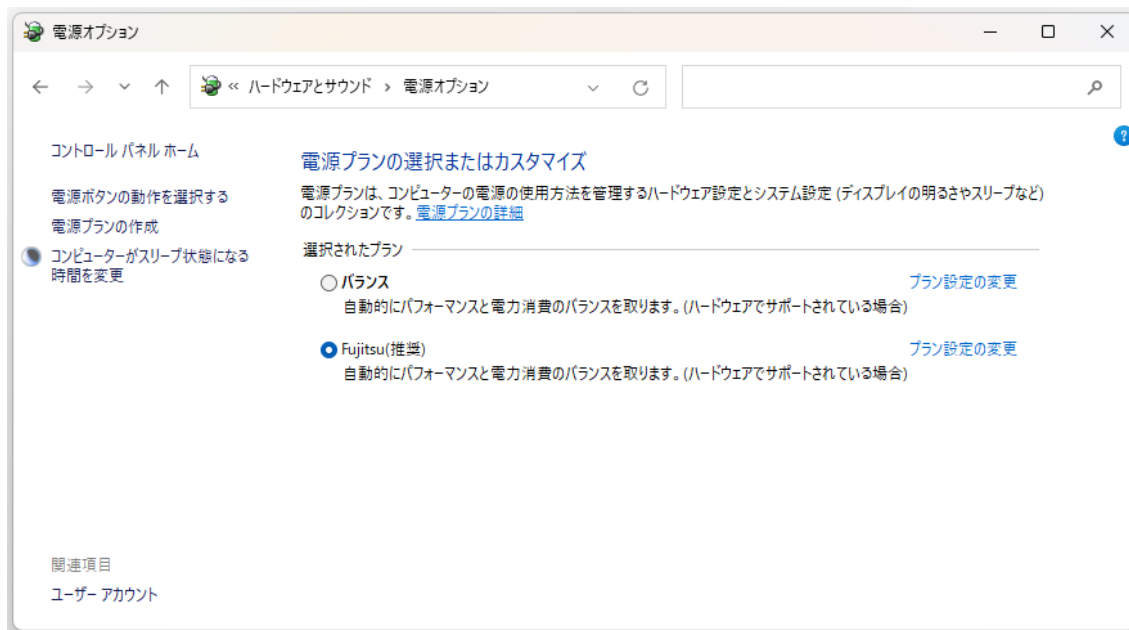
- 1  ▶  (設定) ▶ 「システム」の順にクリックします。
- 2 「電源」をクリックします。
- 3 「画面、スリープ、休止状態のタイムアウト」をクリックします。

スリープ／休止状態の設定変更

スリープ／休止状態などの詳細な設定変更は「電源オプション」ウィンドウで行います。

■ 「電源オプション」ウィンドウを表示する

- 1  ▶ 「すべてのアプリ」▶ 「Windows ツール」の順にクリックし、「コントロールパネル」をダブルクリックします。
- 2 「ハードウェアとサウンド」▶ 「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。



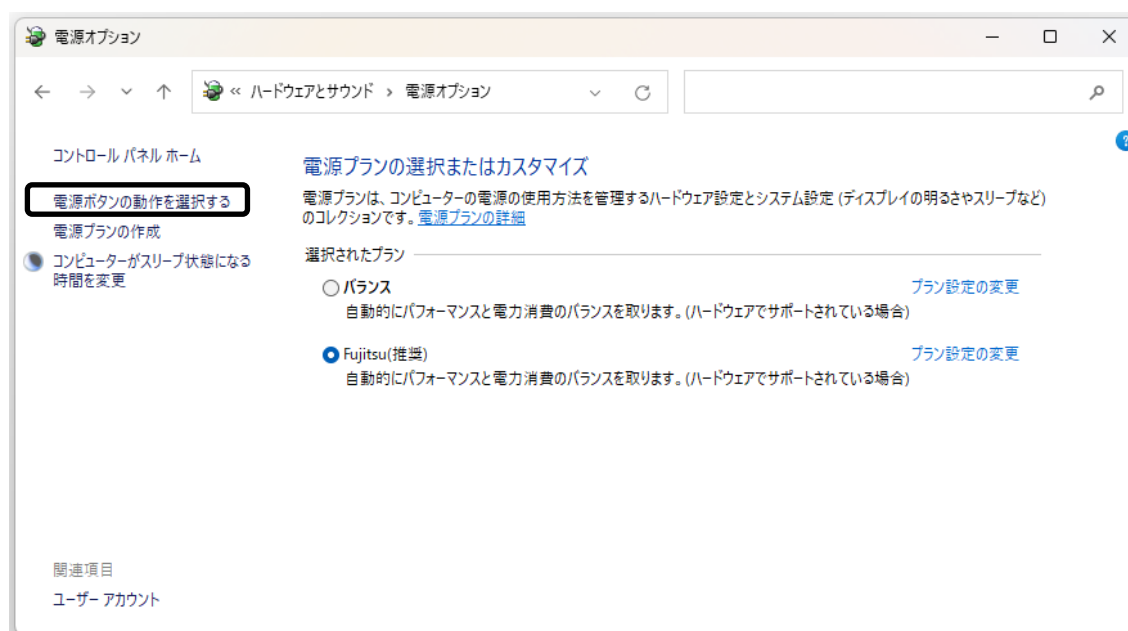
■ 電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する

□ ご購入時の設定

- 電源ボタンを押す
スリープ状態に切り替わる

□ 設定を変更する

1 「電源オプション」ウィンドウで、「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。



2 をクリックして電源ボタンの設定を変更します。



3 「変更の保存」をクリックします。

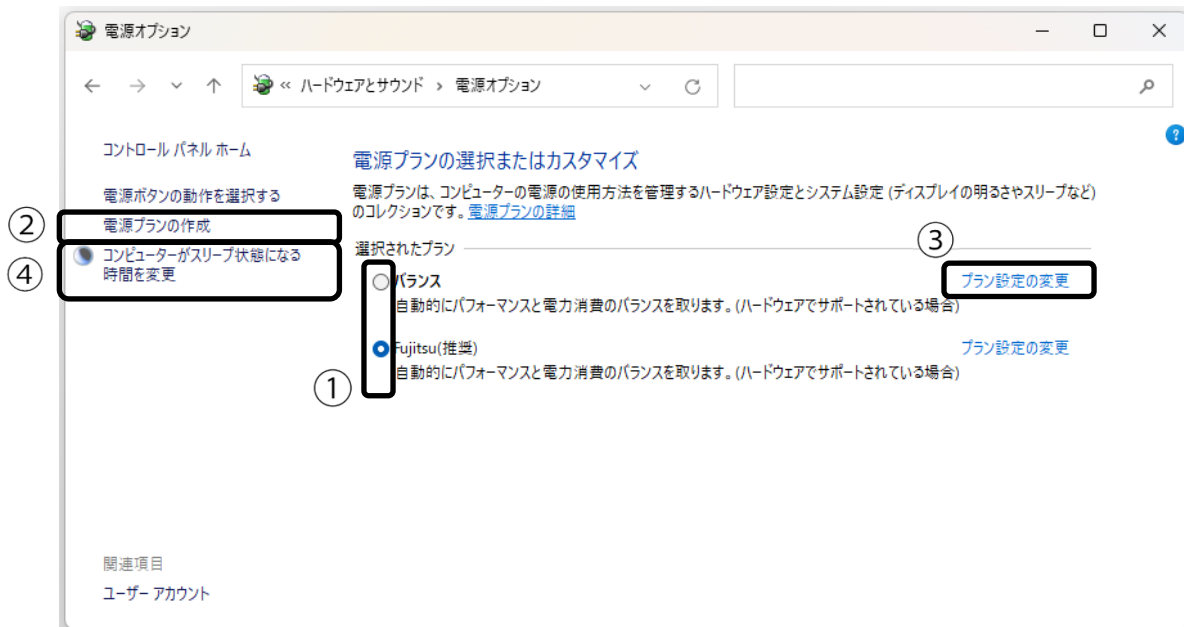


- ▶ パソコンがスリープから復帰（レジューム）するとき、あらかじめ Windows に設定してある PIN を入力する必要があります。Windows Hello で顔認識や指紋認識を設定している場合は、顔認識や指紋認識でサインインできます。

■ 電源プラン

このパソコンではあらかじめ次の電源プランが用意されています。ご購入時は「Fujitsu（推奨）」が選択されています。パソコンの利用状況に応じて切り替えると、消費電力を抑えることができます。

新規に電源プランを作成することもでき、プランごとにスリープになるまでの時間や詳細な設定を変更して保存することができます。



□ 電源プランを切り替える

- 1 「電源オプション」ウィンドウで、①お使いになる状況に適した電源プランの○をクリックして○にします。

□ 新規に電源プランを作成する

- 1 「電源オプション」ウィンドウで、②「電源プランの作成」をクリックします。
「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、画面の指示に従って操作してください。

□ ディスプレイの電源を切るまでの時間、スリープになるまでの時間を変更する

電源プランごとに時間を設定できます。

- 1 「電源オプション」ウィンドウで、変更したい電源プランの③「プラン設定の変更」をクリックします。

Point

- ▶ 現在選択されている電源プランの設定変更をする場合は、④「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックしても、編集画面を表示できます。

2 ① をクリックして時間を変更します。



Point

- ▶ 変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。
1. ②「このプランの既定の設定を復元」をクリックします。
 1. 「はい」をクリックします。
 2. 「変更の保存」をクリックします。

ディスプレイ

ディスプレイに表示できる解像度と発色数

■ ディスプレイに表示できる解像度と発色数についての注意

ここでは、このパソコンで表示できる画面の解像度や発色数について説明しています。解像度とは、縦横にどれだけの点（ピクセル）を表示できるかを示すものです。解像度を高く（大きい数字に）すると画面を広く使えるようになり、多くのウィンドウを表示できます。

重要

- ▶ このパソコンでは、次の表に書かれている解像度でお使いください。
- ▶ 次の場合は設定を変更しないでください。正しく表示されないことがあります。
 - ・ Blu-ray Disc、DVD などの動画再生時（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）

Point

- ▶ アプリによっては、使用時の解像度が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

■ 本体液晶ディスプレイの場合

解像度（ピクセル）	発色数
1024×768	
1280×720	
1280×800	
1280×1024	
1360×768	
1366×768	
1440×900	
1600×900	
1680×1050	
1920×1080	
2560×1440 [注 1] [注 2]	
3840×2160 [注 2]	

注 1： FMV F77-K1、FMV WF2-K1（FMV FH07001）で表示できます。

注 2： FMV WF2-K1（FMV FH07002）で表示できます。

■ HDMI 出力端子に接続したディスプレイの場合

解像度（ピクセル）[注]	発色数
1024×768	約 1677 万色
1280×800	
1280×1024	
1360×768	
1440×900	
1600×900	
1600×1200	
1680×1050	
1920×1080	
1920×1200	
1920×1440	
2560×1440	
2560×1600	
3840×2160	
4096×2160	

注： お使いのディスプレイが各解像度をサポートしている必要があります。ディスプレイがサポートしていない解像度はお使いになれません。

画面の解像度の変更

ここでは、ディスプレイにパソコンの画面を表示するときの、画面の解像度を変更する方法について説明しています。

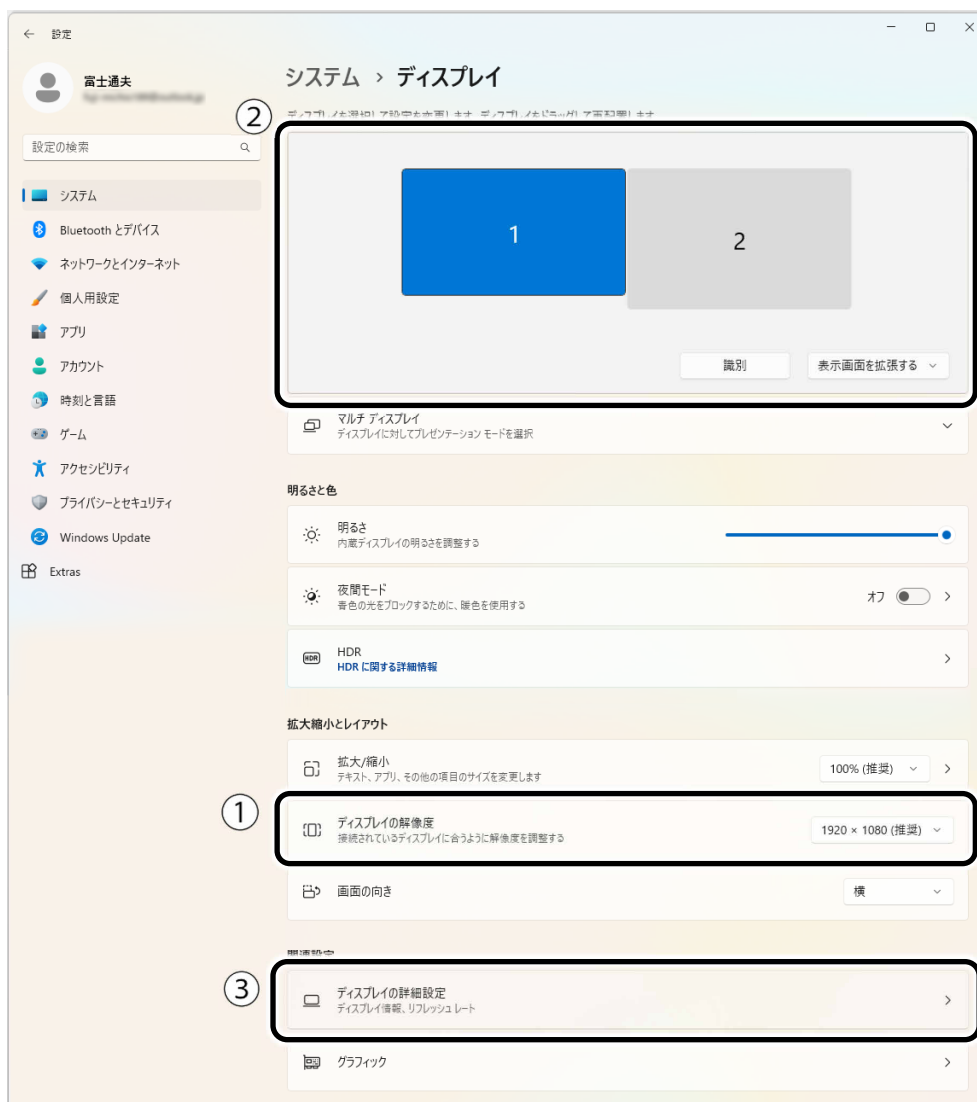
重要

- ▶ 解像度を変更するときは一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。

1  ▶  (設定) ▶ 「システム」▶ 「ディスプレイ」の順にクリックします。

2 解像度を変更します。

- ① 「ディスプレイの解像度」の ▾ をクリックし、変更したい解像度を選択します。



外部ディスプレイを接続すると表示されます。

(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

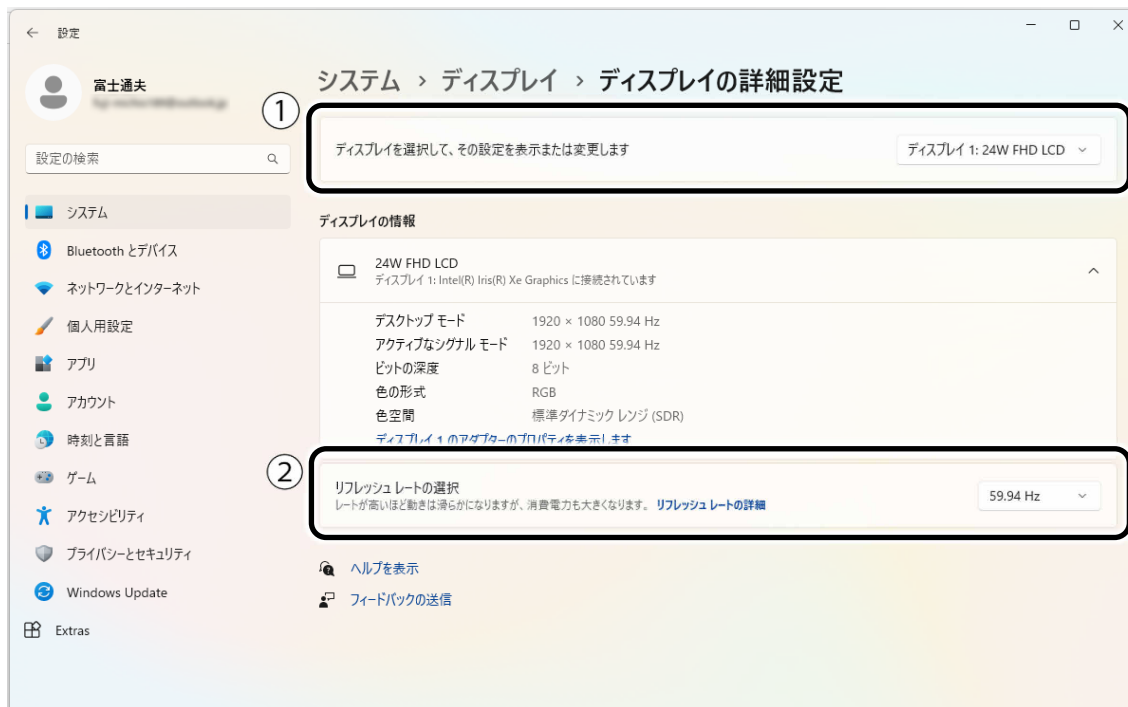
接続した外部ディスプレイの解像度を変更したい場合は、②でディスプレイを選んでから設定してください。設定可能な解像度は外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

3 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。

■ リフレッシュレートの変更

必要に応じて変更してください。

- 1 ③「ディスプレイの詳細設定」をクリックします。
- 2 ①「ディスプレイを選択して、その設定を表示または変更します」の▼をクリックし、ディスプレイを選択し、②「リフレッシュレートの選択」の▼をクリックし、リフレッシュレートを変更します。



- 3 設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をクリックします。

表示するディスプレイの切り替え

ここでは、外部ディスプレイを接続して、同時表示や、マルチモニター機能を使用する方法について説明しています。

■ ディスプレイの接続

□ 必要なものを用意する

- ディスプレイなどの映像機器
- HDMI ケーブル
- ディスプレイなどの映像機器のマニュアル

□ ディスプレイを接続する

1 パソコン本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜きます。

2 パソコン本体の HDMI 出力端子に、HDMI ケーブルを接続します。

「各部の名称と働き」をご覧くださいになり、HDMI 出力端子に接続します。

コネクタと差し込み口の形状を確認して奥までしっかりと差し込みます。

3 ディスプレイに HDMI ケーブルのもう一方のコネクタを接続します。

接続方法は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 パソコン本体の電源ケーブルをコンセントに差します。

5 ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

6 パソコン本体の電源を入れます。続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

Point

- ▶ ディスプレイを接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、ディスプレイのマニュアルをご覧くださいになり、必要なファイルをインストールしてください。外部ディスプレイの製造会社から必要なファイルが提供されていることがあります。

■ 同時表示や 1 台のみ表示にする

ここでは、接続した 2 つのディスプレイの両方に同じ画面を表示する（同時表示）方法と、表示するディスプレイを変更する方法を説明します。2 台のディスプレイを 1 つの画面として表示する（マルチモニター機能）方法については、「マルチモニター機能を使う」（→ P.20）をご覧ください。

- 次のすべてで一致した解像度が表示できます。
 - ・ パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度
「本体液晶ディスプレイの場合」（→P.14）
 - ・ 接続した外部ディスプレイに表示できる解像度
「HDMI 出力端子に接続したディスプレイの場合」（→P.14）
 - ・ 接続した外部ディスプレイがサポートしている解像度
外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

1   (設定) ▶ 「システム」 ▶ 「ディスプレイ」の順にクリックします。

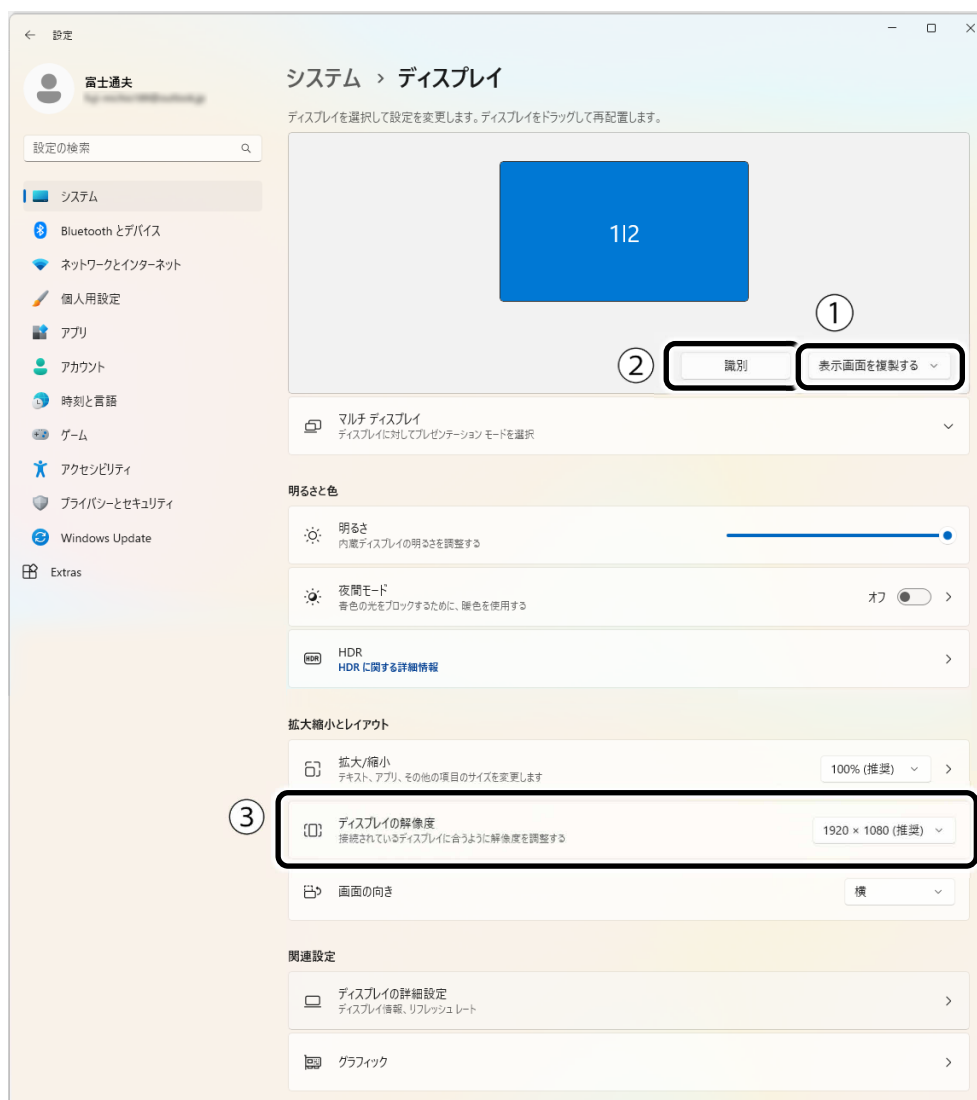
2 ①  をクリックし、表示したいディスプレイを選択します。

■ 1つのディスプレイで表示する場合

「1のみに表示する」または「2のみに表示する」をクリックします。本体のディスプレイを識別するには、②「識別」をクリックしてディスプレイ上に番号を表示してください。

■ 2つのディスプレイで同時に表示する場合

「表示画面を複製する」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「ディスプレイの設定を維持しますか?」というメッセージが表示されたら、画面の指示に従い「変更の維持」をクリックしてください。

4 必要に応じて解像度を変更します。

③ 「ディスプレイの解像度」の  をクリックし、表示された解像度をクリックします。

「ディスプレイの設定を維持しますか?」というメッセージが表示されたら、画面の指示に従い「変更の維持」をクリックしてください。

5 画面右上の ✕ をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

6 音声を出力する機器を選択します。

①画面右下の  をクリックし、②をクリックします。



③音声を出力したい機器をクリックします。

本体のスピーカーを使用する場合は「スピーカー（Realtek(R) Audio)」を選択します。



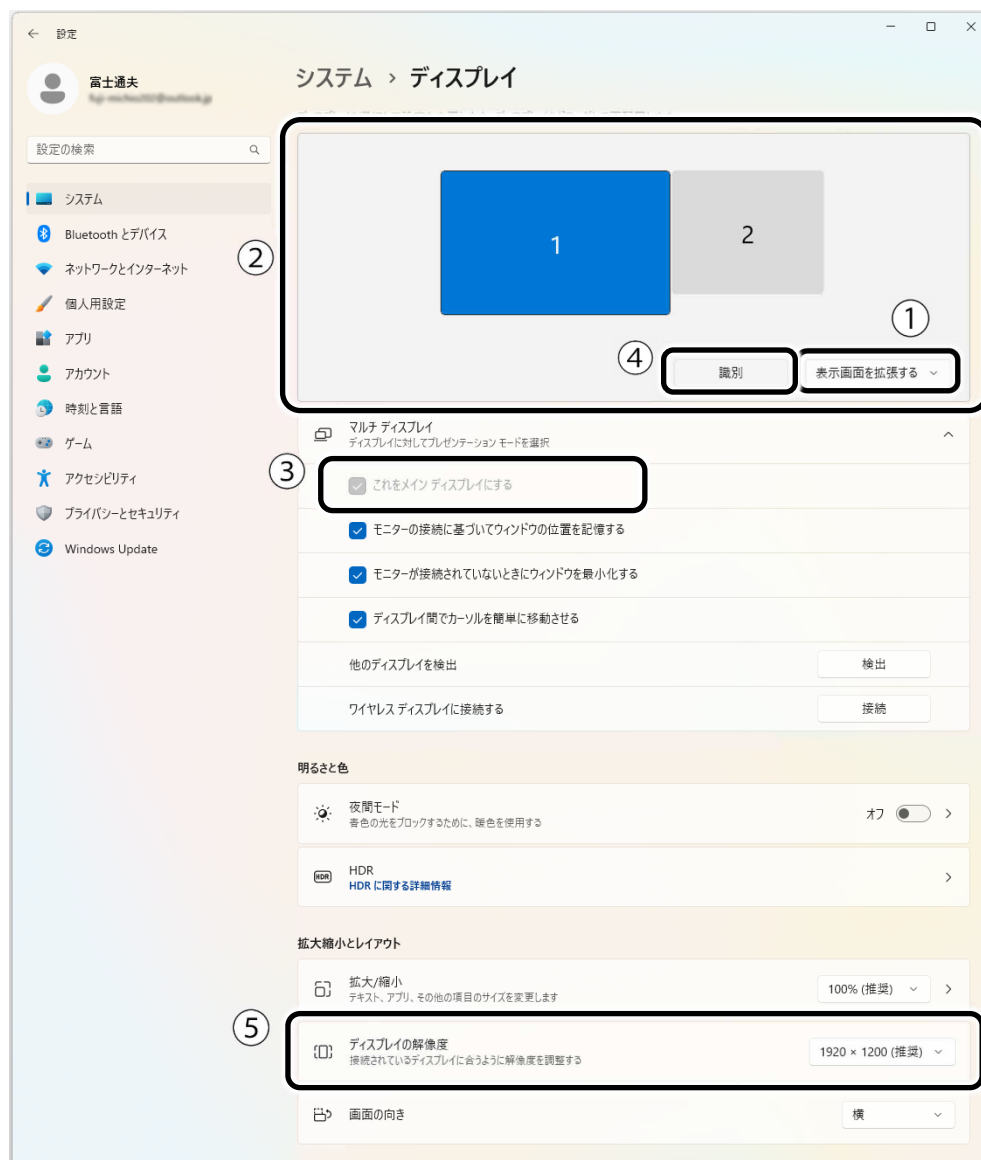
■ マルチモニター機能を使う

□ マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

- マルチモニター機能をお使いになる場合は、「マルチモニター機能を使う」の手順に従って操作してください。それ以外の手順では、正しく動作しないことがあります。
- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のアプリを終了してください。
- マルチモニター機能をお使いになるときは、パソコン本体の液晶ディスプレイをメインディスプレイに設定してください。
- マルチモニター機能を使用中は、次の点に注意してください。
 - ・ 2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、主ディスプレイ（メインディスプレイ）と2番目のディスプレイの設定を変更しないでください。
 - ・ 2番目のディスプレイのみに表示されているアプリを起動中に、2番目のディスプレイの使用を終了しないでください。アプリおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- 一部のスクリーンセーバーは、主ディスプレイ（メインディスプレイ）のみに表示されます。
- お使いのディスプレイに表示できるそれぞれの解像度で表示できます。

1  ▶  (設定) ▶ 「システム」▶ 「ディスプレイ」の順にクリックします。

2 ① をクリックし、表示されたメニューから「表示画面を拡張する」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「ディスプレイの設定を維持しますか？」というメッセージが表示されたら、画面の指示に従い「変更の維持」をクリックしてください。

4 ②で本体の液晶ディスプレイを選択し、③「これをメインディスプレイにする」の ☐ をクリックして ☒ にします。

このパソコンでは HDMI 出力端子に接続したディスプレイなどの映像機器がメインディスプレイに設定されます。本体液晶ディスプレイをメインディスプレイに設定しなおしてお使いください。

本体の液晶ディスプレイを識別するには、④「識別」をクリックしてディスプレイ上に番号を表示してください。

5 ②でディスプレイをドラッグし配置を設定します。

ディスプレイをドラッグした後は、「適用」をクリックします。

ディスプレイ間で項目を左右にドラッグして移動させたい場合はイラストを横に並べて配置し、項目を上下にドラッグして移動させたい場合はイラストを縦に並べて配置します。

なお、イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。実際にはディスプレイが横に並んでいても、イラストは上下に並べて配置できます。

6 必要に応じて解像度を変更します。

⑤「ディスプレイの解像度」の ▾ をクリックし、表示された解像度をクリックします。

「ディスプレイの設定を維持しますか？」というメッセージが表示されたら、画面の指示に従い「変更の維持」をクリックしてください。

7 画面右上の ✕ をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

8 音声を出力する機器を選択します。

① 画面右下の  をクリックし、②をクリックします。





③音声を出力したい機器をクリックします。

本体のスピーカーを使用する場合は「スピーカー（Realtek(R) Audio)」を選択します。



■ キーボードで切り替える

キーボードで表示する画面を切り替えるには、**[Win] + [P]** を押し、カーソルキーで表示方法を選んで、**[Enter]** を押してください。



Point

- ▶ プラグアンドプレイに対応していない外部ディスプレイの場合、キーボードで切り替えることはできません。
- ▶ キーボードで切り替える場合には、拡張表示のメインディスプレイの変更はできません。メインディスプレイは、自動的に以前に設定したディスプレイになります。

サウンド

再生時／録音時のサウンドを調節する

このパソコンのサウンドを調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。



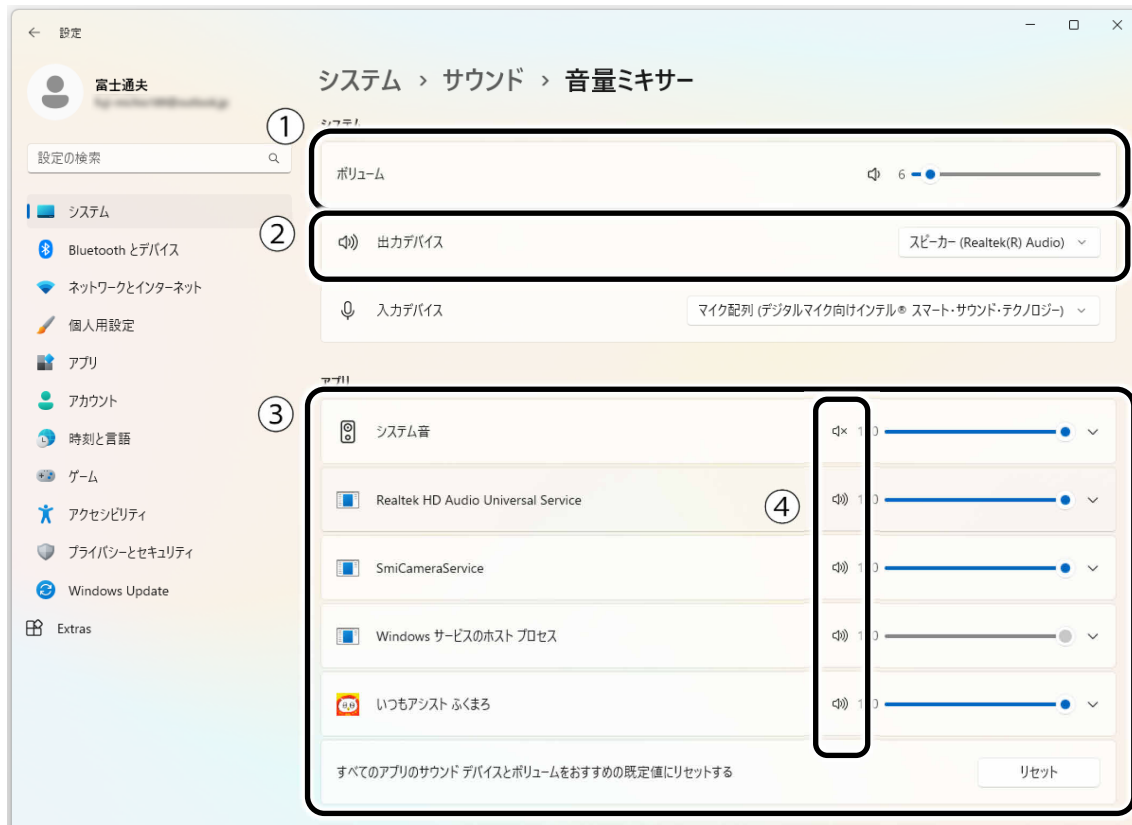
- ▶ お使いの環境によっては、ヘッドホンまたはヘッドセットをご利用ください。

■ デスクトップアプリごとに音量を調節する

デスクトップアプリは「音量ミキサー」ウィンドウでアプリごとに音量を調節できます（一部のデスクトップアプリには個別に調節できないものもあります）。

- 1** 音量を調節したいデスクトップアプリを起動します。
- 2** 画面右下の  を右クリックし、表示されたメニューから「音量ミキサーを開く」をクリックします。

3 「アプリ」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの③スライダーを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- ① このパソコンのスピーカーから出る音量です。
画面右下の から設定した音量と同じです。
- ② HDMI 出力端子に接続したディスプレイから音を出す場合は、機器の名称が表示されます。
- ③ 起動しているアプリごとに音量を調節できます。①に設定した音量が最大値になります。左にドラッグすると音が小さく、右にドラッグすると音が大きくなります。
- ④ ここをクリックして にすると音が消えます。もう一度クリックして にすると元の音量に戻ります。

4 をクリックします。

「音量ミキサー」ウィンドウが閉じます。

■ 再生や録音する機器ごとに音量を調節する

□ 再生や録音する機器を選択する

このパソコンで音声を再生したり録音したりするときに、音声の出力先を選択することができます。

音声が出力できる外部ディスプレイを接続したときも、次の手順で再生する機器を選択できます。

- 1 画面右下の  を右クリックし、表示されたメニューから「サウンドの設定」をクリックします。
- 2 「詳細設定」の「サウンドの詳細設定」をクリックします。
- 3 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックして①機器を選択し、②「既定値に設定」をクリックします。



選択した機器にチェックマークが付きます。

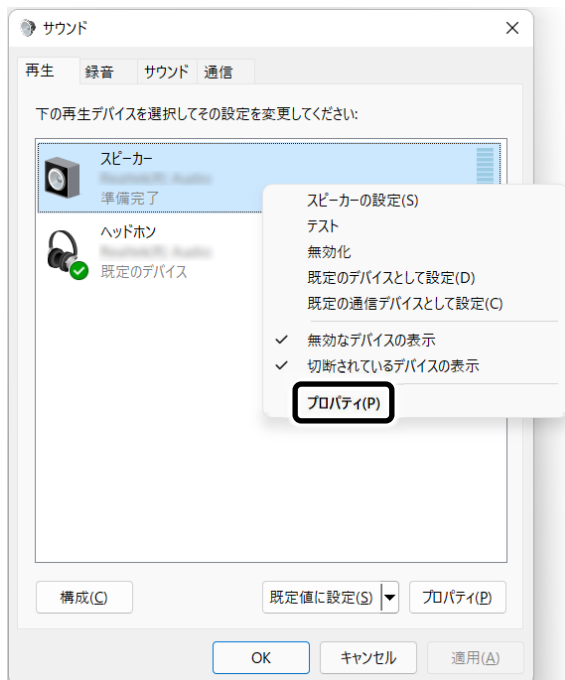
- 4 「OK」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

□ 再生する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

- 1 画面右下の  を右クリックし、表示されたメニューから「サウンドの設定」をクリックします。
- 2 「詳細設定」の「サウンドの詳細設定」をクリックします。

- 3 「再生」タブの「スピーカー」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。**



「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「レベル」タブをクリックします。**
- 5 音量を調節したい項目で、スライダーを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。**



-  : スピーカーから音が聞こえます。
-  : スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
- 「バランス」: 左右の音量のバランスを調節できます。

6 「OK」をクリックします。

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

7 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

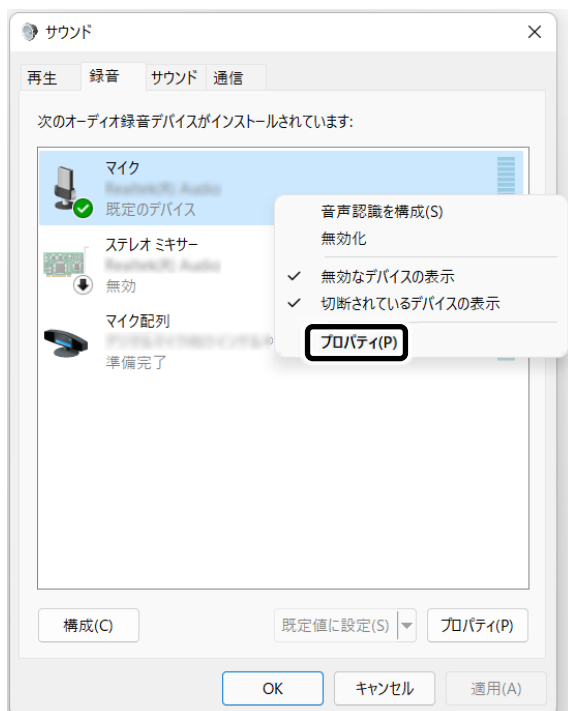
□ 録音する機器の音量を調節する

ここでは、例としてマイクの音量を調節する方法を説明します。

1 画面右下のを右クリックし、表示されたメニューから「サウンドの設定」をクリックします。

2 「詳細設定」の「サウンドの詳細設定」をクリックします。

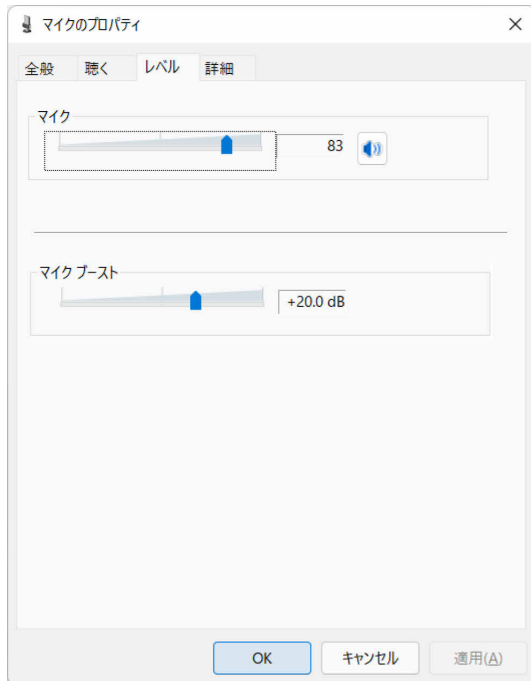
3 「録音」タブの「マイク」を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックします。



「マイクのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 「レベル」タブをクリックします。

5 音量を調節したい項目で、スライダーを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



: マイクで録音します。



: マイクで録音しないようにします。

6 「OK」をクリックします。

「マイクのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

7 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

■ スピーカーやヘッドホンの音質を調節する

パソコンに内蔵されているスピーカーやヘッドホンの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるステレオ感や、重厚感のある低音を実現します。

重要

- ▶ Dolby Access の音質の調節は、内蔵スピーカーと、次の端子に接続されたヘッドホンとヘッドセットが対象となります。
- ・ マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子

- 1  ▶ 「すべてのアプリ」▶ 「Dolby Access」の順にクリックします。
- 2 「Dolby Access」の紹介画面が表示されたら、「次へ」または「スキップ」をクリックします。
- 3 「設定」をクリックします。



4 音質を調節します。

起動時は「ダイナミック」モードになっています。

「ゲーム」、「映画」、「ミュージック」、「音声」、「カスタム 1/2/3」のモードに切り替えることができます。

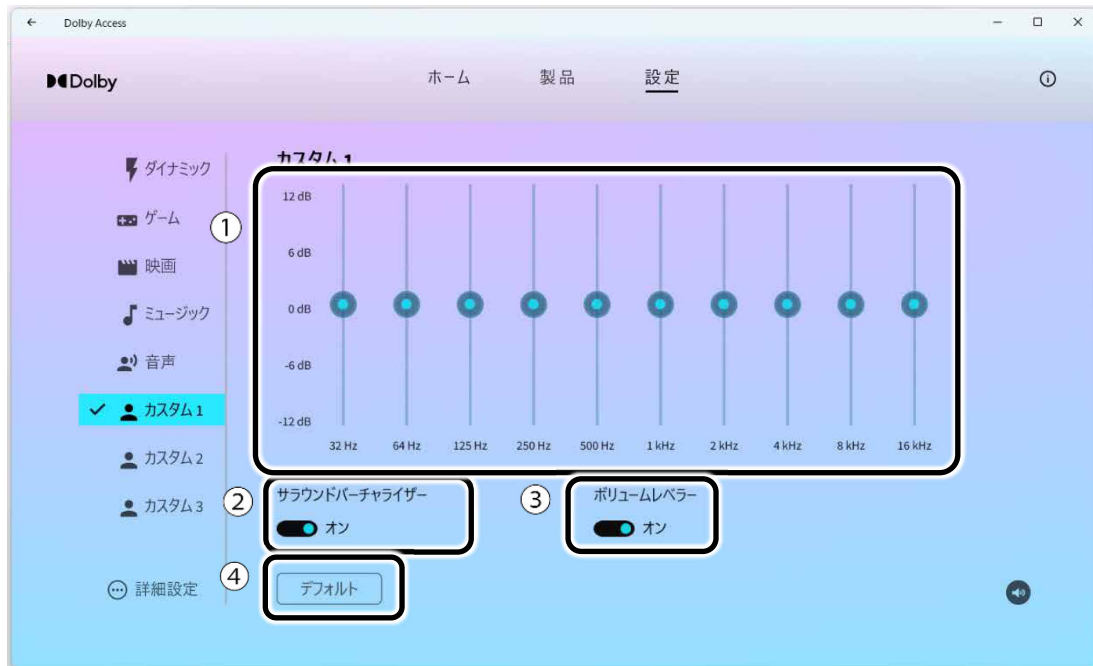


- ① ダイナミック：「ダイナミック」モードを選択します。再生するコンテンツに応じて最適な調整をします。選択時はチェックが付きます。
- ② ゲーム：「ゲーム」モードを選択します。選択時はチェックが付きます。
- ③ 映画：「映画」モードを選択します。選択時はチェックが付きます。

- ④ ミュージック：「ミュージック」モードを選択します。選択時はチェックが付きます。
- ⑤ 音声：「音声」モードを選択します。選択時はチェックが付きます。
- ⑥ カスタム 1/2/3：「カスタム 1/2/3」モードを選択します。選択時はチェックが付きます。
- ⑦ 詳細設定：Dolby 効果のオン/オフを切り替える画面が表示されます。

■ 「カスタム」モード

自分の好みの音質を設定できます。



- ① お好みにより各周波数の再生レベルを増減できます。(周波数は固定です。) 白丸を上下に移動させ、お好みに調整してください。
- ② オンにすると、音が一方向からではなく、全方向から聞こえるかのように調整します。
- ③ オンにすると、音量が一定のレベルになるよう調整します。
- ④ クリックすると、初期値（①の周波数設定が全て"0"の状態）に戻ります。

兼用端子の機能切り替え

お使いの機種に搭載されている兼用端子は、複数の機能を兼用しています。必要に応じて機能の切り替えを行ってください。

オーディオの入出力端子の種類と場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。
ご購入時の端子は次のように機能します。

- マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子：ヘッドホン

設定を変更するには、次の手順を行ってください。

重要

- ▶ マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット端子に機器を接続するときは、接続した機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。

1 機能を切り替えたい端子に外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続します。
機器を接続していないときは、切り替えられません。

2  ▶「すべてのアプリ」▶「Realtek Audio Console」の順にクリックします。

3 「Realtek Audio Console」ウィンドウが表示されたら、次のように操作します。



① 「デバイス詳細設定」をクリックします。

②  をクリックし、表示されたメニューから使用したいデバイスを選択します。

通信

重要

- ▶ インターネットに接続すると、コンピューターウイルスや不正アクセスなどさまざまな脅威にさらされます。必ずセキュリティ対策をしてください。
新たな脅威を防いでパソコンを安全に使うため、パソコンを最新の状態にアップデートしてください。またセキュリティソフトも最新の状態にしてお使いください。

有線 LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。

無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」（→P.35）をご覧ください。

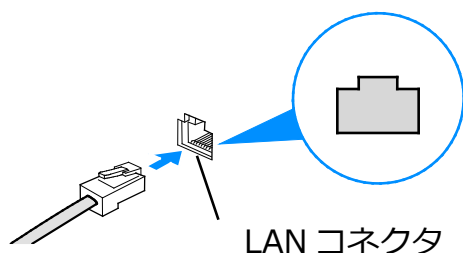
■ 必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

- ネットワーク機器
ネットワーク接続の目的に合わせて、このパソコンで使える LAN のスピードを確認してから必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。
 - ・ ダイアルアップルーター
 - ・ ブロードバンドルーター
 - ・ ブロードバンドモデム
 - ・ ハブ
- LAN ケーブル
ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧ください。必要なものをご用意ください。
- ネットワーク機器のマニュアル
お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルや、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもご覧ください。

■ LAN ケーブルを接続する

- 1 LAN コネクタに、LAN ケーブルの一方を接続し、もう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。



LAN ケーブルをコネクタの向きに合わせてしっかり差し込みます。

Point

- ▶ LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

■ LAN を利用して、別のパソコンから電源を制御する

ここでは、LAN による電源制御機能（Wake on LAN 機能）を有効にするための設定方法を説明しています。

LAN による電源制御機能を有効にすると、ネットワークでつながった別のパソコンから、このパソコンの電源を入れることができるようになります。

- 1 BIOS セットアップを起動します（→ P.56）。
- 2  または  で、「電源管理」メニューを選択します。
- 3  または  っで、「LAN によるウェイクアップ」を選択します。
- 4  （Space）キーまたは  を押して、「使用する」にします。
- 5  を押します。
- 6 設定を保存して BIOS セットアップを終了します（→ P.58）。
- 7 パソコンを起動します。

無線 LAN

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、『取扱説明書<スタートガイド>』をご覧ください。

■ 無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□ 無線 LAN について

- このパソコンの無線設備は次の表示の 2.4GHz 帯を使用しています。



この無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DSSS 変調方式および OFDM 変調方式を採用しており、与干渉距離は 40m です。

- このパソコンの使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 1. このパソコンを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 2. 万一、このパソコンから移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 3. その他、このパソコンから移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、『取扱説明書<スタートガイド>』をご覧ください。

- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠では見通し 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠では見通し 25m 以内、IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠、IEEE 802.11ax 準拠では見通し 50m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠の無線 LAN の混在環境においては、IEEE 802.11g 準拠は IEEE 802.11b 準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g 準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠を別のネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上あけてお使いください。

- 電波法の定めにより W56 のチャンネルは屋外でご利用になれますが、W52、W53 のチャンネルは屋外でご利用になれません。このパソコンに内蔵の無線 LAN を 5GHz 帯でご利用になる場合、特定のチャンネルの電波の発信を停止することはできないため、屋外ではご利用になれません。5GHz 帯について詳しくは「5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の種類」（→P.37）をご覧ください。
- 電波法の定めにより、6GHz 帯を LPI モードで使用しているときは、屋外でご利用できません。LPI モードは、屋内限定で利用するように設定された出力モードです。
- 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

□ 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- ▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンやタブレットなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスブロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
 - ・ ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
 - ・ メールの内容
 などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
 - ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
 - ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
 - ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
 - ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
 などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。

しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□ 5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の種類

5GHz 帯を利用した無線 LAN には、W52、W53、W56 という 3 種類のチャンネル（周波数帯）があります。これは、2007 年 1 月 31 日および 2005 年 5 月 16 日に総務省により発表された「電波法施行規則の一部を改正する省令」により、5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の変更と、新チャンネルの追加が行われたためです。

IEEE 802.11a/b/g/n/ac/ax 準拠の無線 LAN を搭載した機種では、5GHz の周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52 : 36(5,180MHz)/40(5,200MHz)/44(5,220MHz)/48(5,240MHz)
- W53 : 52(5,260MHz)/56(5,280MHz)/60(5,300MHz)/64(5,320MHz)
- W56 : 100(5,500MHz)/104(5,520MHz)/108(5,540MHz)/112(5,560MHz)
/116(5,580MHz)/120(5,600MHz)/124(5,620MHz)/128(5,640MHz)
/132(5,660MHz)/136(5,680MHz)/140(5,700MHz)/144(5,720MHz)

5GHz 帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線 LAN 製品とのみ通信が可能です。

アドホック通信では 5GHz 帯を使用できません。



- ▶ IEEE 802.11n、IEEE802.11ax では、2.4GHz/5GHz 両方の周波数帯のチャンネルを使用します。

□ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、このパソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。

- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記の場合です。
 - ・ 他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可について各団体などへ問い合わせをしてください。

□ 電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。

□ 無線 LAN による通信を行うための注意

- このパソコンの使用時、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・ このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・ 受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・ 経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。
不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。
- 近くに他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器から 3m 以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。

□ 良好な通信を行うために

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。

無線 LAN の種類 [注]	推奨する最大通信距離
IEEE 802.11a 準拠	見通し 15m 以内
IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠	見通し 25m 以内
IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11ax 準拠	見通し 50m 以内

注 お使いの機種により搭載されていない種類もあります。

ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプリ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- このパソコンの無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯（2.4GHz 帯）を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができます場合があります。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電源を切るか、電波を停止する。
Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください、電源を切るか、電波を停止してください（単独で電源を切れないものを除く）。
 - ・ 無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。
- 5GHz 帯チャンネルの W53（52～64ch）、W56（100～144ch）では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53/W56 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53/W56 以外のすべての通信もいったん切断されます。

■ 無線 LAN の仕様

項目	仕様 [注 1]	
ネットワークの種類	IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠、IEEE 802.11ax 準拠 (Wi-Fi [®] 準拠) (Wi-Fi CERTIFIED 6 [™] 準拠) [注 2]	
転送レート [注 3]	IEEE 802.11b 準拠	最大 11Mbps
	IEEE 802.11a/g 準拠	最大 54Mbps
	IEEE 802.11n 準拠	最大 300Mbps (送信 2×受信 2 接続対応) [注 4]
	IEEE 802.11ac 準拠	最大 1733Mbps (送信 2×受信 2 接続対応) [注 4]
	IEEE 802.11ax 準拠	最大 574Mbps (2.4GHz 帯) 最大 2402Mbps (5GHz/6GHz 帯) (送信 2×受信 2 接続対応) [注 4]
使用周波数 (中心周波数)	2,412~2,472MHz、5,180~5,320MHz、5,500~5,720MHz、 5,955~6,415MHz	
チャンネル	2.4GHz 帯 (IEEE802.11b/g/n/ax 準拠)	1~13ch
	5GHz 帯 (IEEE802.11a/n/ac/ax 準拠)	W52 (36/40/44/48ch) W53 (52/56/60/64ch) W56 (100/104/108/112/116/120/ 124/128/132/136/140/144ch)
	6GHz 帯 (IEEE802.11ax 準拠)	6L (1/5/9/13/17/21/25/29/33/ 37/41/45/49/53/57/61/65/ 69/73/77/81/85/89/93ch)
セキュリティ [注 5]	SSID (ネットワーク名) WEP (セキュリティキー (WEP キー) : 64/128 ビット) [注 6] WPA-パーソナル (WPA-PSK) (TKIP/AES) WPA2-パーソナル (WPA2-PSK) (TKIP/AES) WPA-エンタープライズ (WPA) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) WPA2-エンタープライズ (WPA2) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) IEEE 802.1X (TLS/PEAP) WPA3-パーソナル (WPA3-SAE) (AES) WPA3-エンタープライズ 192 ビット (WPA3) (TLS) (AES)	

注 1 : アドホック通信には対応していません。

注 2 : Wi-Fi[®]準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance[®]」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 3 : ご利用の環境によって自動で切り替わります。

注 4： 以下の帯域幅に対応しています。

- ・ 20MHz 帯域幅 (HT20/VHT20/HE20)
- ・ 40MHz 帯域幅 (HT40/VHT40/HE40)
- ・ 80MHz 帯域幅 (VHT80/HE80)
- ・ 160MHz 帯域幅 (VHT160/HE160)

上記の帯域幅を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも各帯域幅に対応している必要があります。

無線 LAN アクセスポイントの設定において各帯域幅の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに各帯域幅の機能を無効にしてください。

注 5： IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11ax で接続するためには、パスメッシュ (PSK) を AES に設定する必要があります。

注 6： WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット/104 ビットです。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用する方法について説明しています。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやモデム、携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載のパソコンやタブレットなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。



- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになる場合は、セキュリティの設定をすることをお勧めします。セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使うための設定をする

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー対応機器を接続するためには、「Bluetooth デバイスの管理」を使用します。

- 1   (設定) ▶ 「Bluetooth とデバイス」の順にクリックします。

Bluetooth の設定画面が表示されます。



- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもあわせてご覧ください。これらのマニュアルに設定方法が記載されている場合は、そちらの手順に従ってください。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特長

このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジーの主な特長は次のとおりです。なお、すべての Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器に接続可能なことを保証するものではありません。

規格 : Bluetooth v5.3 準拠 [注 1]

出力 : Class1

最大通信速度 : 2.1Mbps [注 2]

与干渉距離 : 80m

注 1 : これ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。

注 2 : 実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

■ 必要なものを用意する

● Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してパソコンと接続する機器です。お使いのパソコンに搭載されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの規格に対応したものをご用意ください。なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

- ・ キーボード
- ・ ヘッドセット
- ・ マウス
- ・ 携帯電話
- ・ プリンター

● Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアル

お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

重要

▶ ペ어링コード（PIN またはパスコード）について

- ・ パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の接続（ペ어링）設定をするときには、機器によっては「ペ어링コード（PIN またはパスコード）」が必要になる場合があります。
- ・ 「ペ어링コード（PIN またはパスコード）」については、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。

▶ プロファイルについて

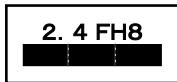
- ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。
- ・ このパソコンには、このパソコンがサポートしているプロファイルに対応した Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。このパソコンがサポートしているプロファイルは次のとおりです。
HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HFP、HOGP

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえでの注意

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□ Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて

- このパソコン無線設備は次の表示の 2.4GHz 帯を使用しています。



この無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可です。変調方式として FHSS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 80m です。

- このパソコンの使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 1. このパソコンを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 2. 万一、このパソコンから移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 3. その他、このパソコンから移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」

- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し 10m 以内です。ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

□ Bluetooth ワイヤレステクノロジーご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンやタブレットとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。
- 不正に使用される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をされてしまうおそれがあります。
 - ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
 - ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
 - ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
 - ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

このパソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンやタブレットに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンやタブレットがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンやタブレットは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、周辺機器や他のパソコンやタブレットに添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについては、**Q&A** 「Bluetooth ワイヤレステクノロジーのセキュリティの設定について教えてください。」をご覧ください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□ Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信を行うための注意

- このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナは、パソコン本体に内蔵されています。
このパソコンの使用時、特に Bluetooth ワイヤレステクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。また、パソコン本体を設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナの場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し 10m 以内です。
ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプリ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかつたり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジーは 2.4GHz 帯規格の無線 LAN と同じ周波数帯の電波を使用します。そのため、ご使用の状態によっては無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が干渉し、他のパソコンやタブレットなどとの通信速度が低下したり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪くなったりする場合があります。
- 無線 LAN 機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
 - ・ 無線 LAN 機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - ・ 無線 LAN 機器の電源を切る。
 - ・ 無線 LAN 機器の電波を停止する。
 - ・ 無線 LAN の 5GHz 帯や 6GHz 帯を利用する。
- このパソコンに USB アダプタ型などの他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を取り付けて、同時に使用しないでください。

□ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、このパソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
 - ・ 他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可について問い合わせをしてください。

□ 電波放射の人体への影響

- このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

□ 干渉に関する注意

- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・ パソコン本体と受信機の距離を離す
 - ・ 受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・ 経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。
不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

無線通信機能の電波を発信する／停止する

パソコンに搭載されている無線 LAN や Bluetooth ワイヤレステクノロジーなどの無線通信機能の電波を発信／停止する方法について説明します。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。

無線通信機能の電波の発信／停止には、次の 2 つの方法があります。

- すべての無線通信機能の電波を発信／停止する
パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。
- 特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する
すべての無線通信機能の電波が発信されている状態で、特定の無線通信機能の電波の発信／停止だけを切り替えます。例えば、無線 LAN の電波は発信したまま、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を停止したいときなどに便利です。

■ すべての無線通信機能の電波を発信／停止する

機内モードという機能を「オン」「オフ」することで、パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。

ただし、機内モードの「オン」「オフ」に対し、無線 LAN と Bluetooth の状態（オン／オフ）を個別に設定できます。

□ 機内モードの「オン」「オフ」を切り替える

- 機内モードがオン：すべての無線通信機能の電波を停止する
- 機内モードがオフ：すべての無線通信機能の電波を発信する

1 画面右下の  をクリックします。

2 「クイック設定」が表示されたら、発信／停止したい機能をクリックします。



(画面は機種や状況により異なります)

- ① クリックすると機内モードのオン／オフを切り替えられます。オンのときはアクセントカラーになり、②も連動して✈️に変わります。

Point

- ▶ 機内モードがオフでも電波が停止している場合があります。
電波の発信／停止の状態は、「特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する」(→ P.50) の手順で表示される画面で確認できます。

□ 機内モードの「オン」「オフ」に対し、無線 LAN と Bluetooth の状態 (オン／オフ) を個別に設定する

「機内モード」の「オン」「オフ」のとき、それぞれに対し、無線 LAN と Bluetooth の状態 (オン／オフ) が保持されます。

例：「機内モード」が「オン」のときに、「Bluetooth」を「オン」にすると、その後「機内モード」を「オン」にしたときは、「Bluetooth」は「オン」のままです。

「機内モード」が「オン」のときに「Bluetooth」を「オフ」にしたい場合は、「機内モード」が「オン」のときに「Bluetooth」を「オフ」にします。

同様に「機内モード」が「オフ」のときに「Bluetooth」(オン／オフ) を変更すると、その状態が保持されます。

■ 特定の無線通信機能の電波だけを発信／停止する

- 1 画面右下の  をクリックします。
- 2 「クイック設定」が表示されたら、発信／停止したい機能をクリックします。



- ① 無線 LAN を発信／停止したいときにクリックします。オンのときはアクセントカラーになります。
- ② 無線 LAN の設定画面が表示されます。異なるネットワーク名の無線 LAN に切り替えるときなどにクリックします。
- ③ Bluetooth を発信／停止したいときにクリックします。発信されているときはアクセントカラーになります。

Point

- ▶ アクセントカラーは、 ▶ （設定）▶ 「個人用設定」の順にクリックし、「色」をクリックすると確認や変更ができます。

アプリ・ドライバー

このパソコンにあらかじめインストールされているアプリやドライバーについて説明します。
削除したアプリをもう一度使いたいときや、アプリやドライバーの動作がおかしくなったとき、インストールし直すことができます。

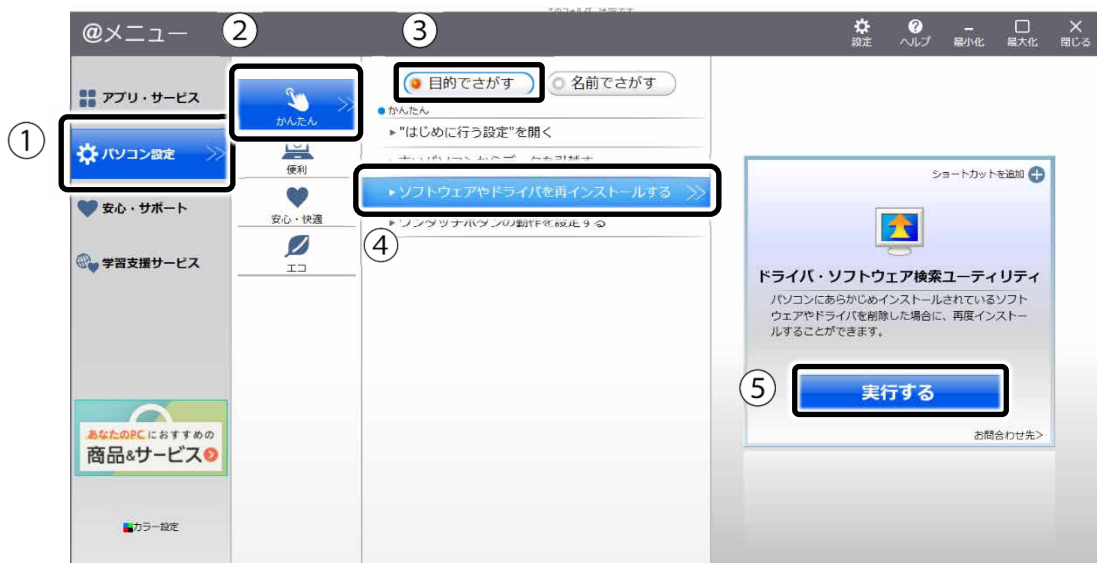
アプリの再インストール

再インストール方法はお使いになるアプリにより異なります。

ご購入時にインストールされていたアプリで、Microsoft Store で提供されていないものは、「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」(→P.51) からインストールできます。

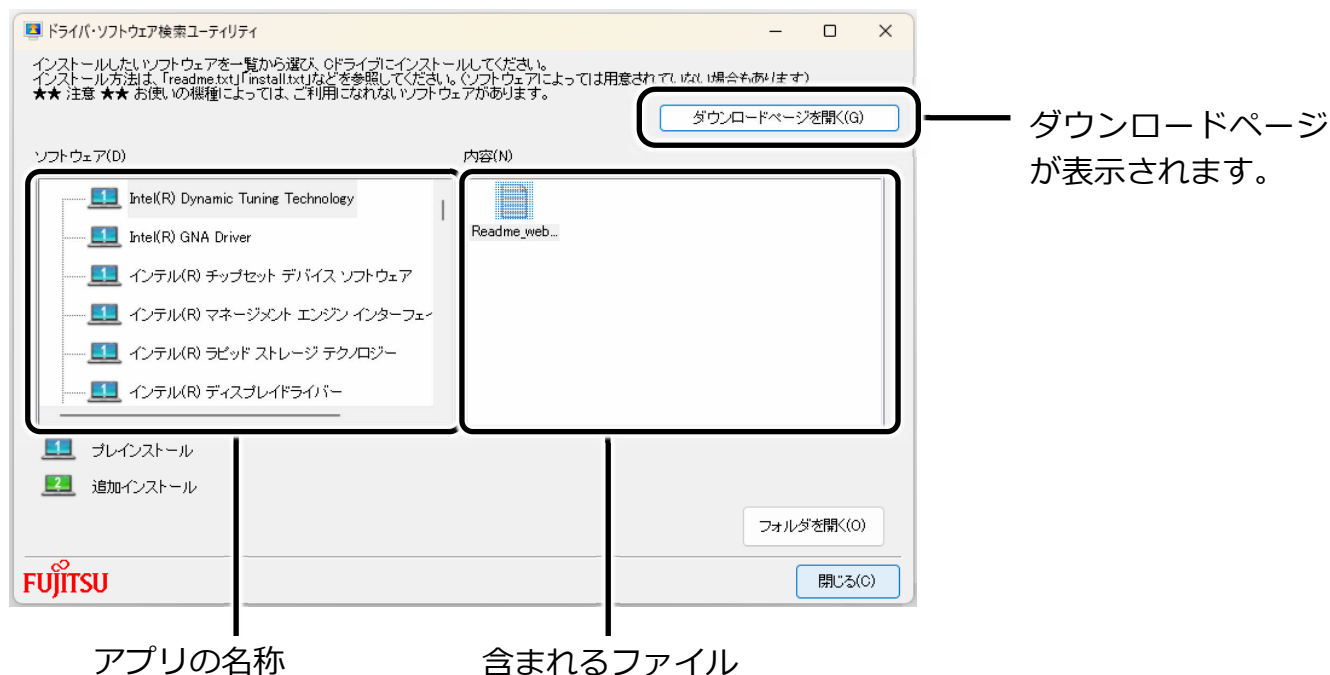
■ ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ

- 1 タスクバーの  (@メニュー) をクリックします。
- 2 ①「パソコン設定」▶②「かんたん」▶③「目的でさがす」▶④「ソフトウェアやドライバーを再インストールする」▶⑤「実行する」の順にクリックします。



- 3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

- 4 「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」ウィンドウが表示されたら、「ソフトウェア」からインストールするアプリの名称をクリックします。**
 アプリの名称をクリックすると、アプリに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



- 5 それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認し、インストールします。**

Point

- ▶ 「readme.txt」、「install.txt」などにアプリやドライバーをダウンロードするように記載されている場合は、「ダウンロードページを開く」をクリックしてください。
- ▶ 「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」を再インストールする方法は、**Q&A**「ソフトウェアディスク検索」または「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」が見つかりません。」をご覧ください。

■ Microsoft Store

Microsoft Store の利用には生年月日などの情報を登録した Microsoft アカウントでサインインする必要があります。

Point

- ▶ ご購入時にインストールされているアプリは、Microsoft Store では有償アプリとして提供されているものもあります。その場合は、「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」(→P.51) からインストールしてください。無償でインストールできます。
- ▶ Microsoft アカウントに生年月日などの情報が登録されていない場合、Microsoft Store を使い始めるときに登録します。登録を求める画面が表示されたら、指示に従って登録してください。

1  ▶ 「Microsoft Store」の順にクリックします。

2 インストールしたいアプリが画面に表示されていればクリックします。

ない場合は入力フォームに検索したいアプリの名前を入力して、 をクリックします。アプリは画面下側に隠れている場合があります。画面を上スクロールしてください。

3 「インストール」、「入手」、または価格の書かれたボタンをクリックします。

この後は画面の指示に従って操作してください。

□ 更新プログラム

インターネットに接続していると、インストール済のアプリが最新のバージョンでなかった場合、自動的に更新されます。

手動で更新したい場合は、次の手順で自動更新を無効にしてください。

1 「Microsoft Store」画面右上のアカウントのプロフィールのアイコンをクリックし、表示されたメニューから「設定」をクリックします。

2 「アプリ更新」の  (オン) をクリックして  (オフ) にします。

■ 「Office」をインストールし直す

「Office」搭載機種のみ

「Office」搭載機種をお使いの方で、「Office」のみインストールし直したい場合は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

アプリのアンインストール

ほとんどのアプリは「インストールされているアプリ」のアンインストール機能でアンインストールできます。

■ 「インストールされているアプリ」からアンインストールする

- 1  を右クリックし、「インストールされているアプリ」をクリックします。
- 2 一覧から削除したい項目の①…をクリックし、②「アンインストール」をクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。



- 3 この後は画面の指示に従ってアプリを削除します。

Point

- ▶ 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

ドライバー

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないうち、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。

■ ドライバーのアップデート

各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあり、ご購入時に添付されているものより新しいバージョンが、サポートページ (<https://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」で公開されている場合があります。

サポートページの「機種別サポート情報・ダウンロード」に最新のドライバーがない場合は、ドライバーを削除し、再インストールしてください。

Point

- ▶ 最新のドライバーは Windows Update で配信される場合もあります。
 ▶  (設定) ▶ 「Windows Update」の順にクリックして確認してください。
- ▶ 「アップデートナビ」を使ってアップデートすることもできます。詳しくは  「アップデートナビの使い方を教えてください。」をご覧ください。

■ ドライバーの削除、再インストール手順

ご購入時にインストールされているドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。

ドライバーの格納されているフォルダーは、「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」(→P.51) でご確認ください。

Point

- ▶ ご購入時にインストールされているドライバーはサポートページ (<https://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」で公開されています。
- ▶ プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

BIOS の設定

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

BIOS セットアップの操作

■ BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけがパソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テストで BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

BIOS セットアップの操作は、キーボードで操作します（タッチパネル搭載機種でもタッチでは操作できません）。

■ BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、完全に電源が切れた状態から操作を始めてください（「取り扱い」－「電源の入れ方／切り方」－「パソコンの電源を完全に切る」）。

Point

- ▶ Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待ってから、パソコンの電源を切り、もう一度手順 1 からやり直してください。

1 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

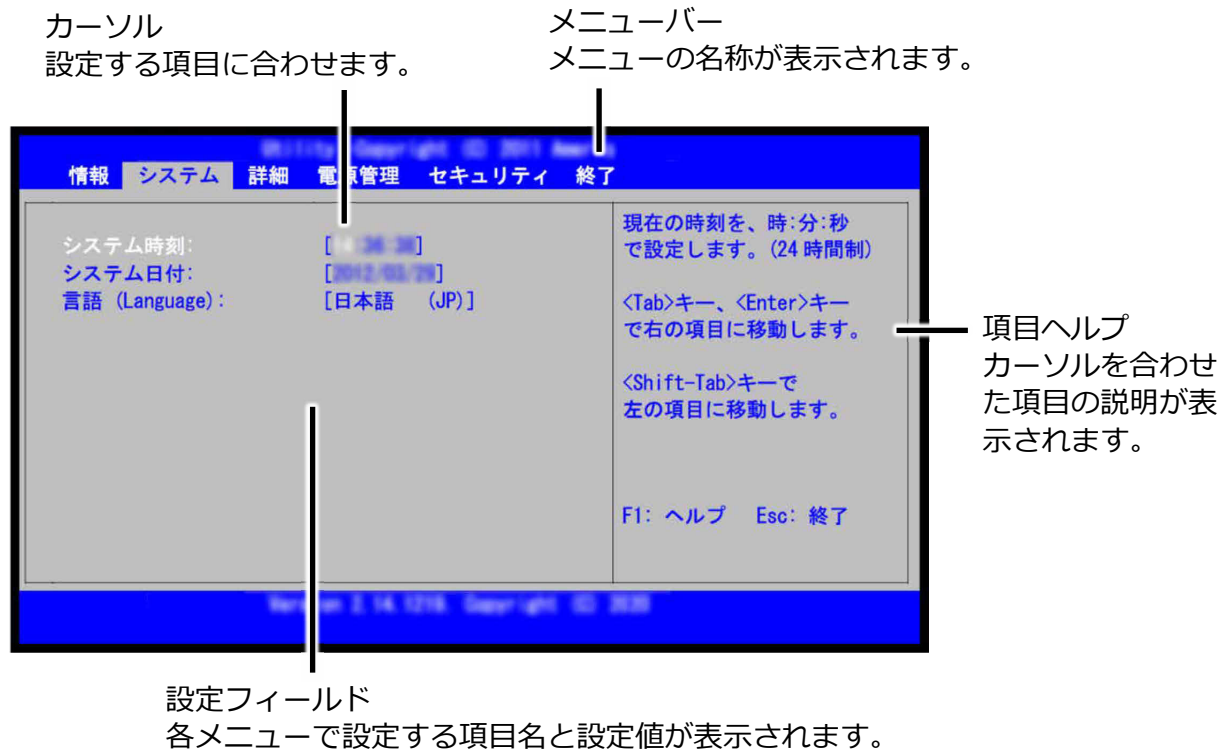
2 キーボードの  を押します。

3  を押し、「BIOS セットアップ」を選択して、 を押します。

BIOS セットアップ画面が表示されます（→P.57）。

■ BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



■ 設定を変更する

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

1 または でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 または でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。

項目名にカーソルを移動して を押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは を押します。

3 (Space) キーまたは を押して、選択している項目の設定値を変更します。

項目の中には、数値を入力するものもあります。

画面の右に、各設定値の説明が表示されます。参考にしてください。

さらに他の項目の設定を変更したいときは、手順 1 から繰り返します。

4 設定を保存して終了します。

Point

▶ 設定時によく使用するキーは、次のとおりです。

- ・ 、

設定する項目にカーソルを移動します。

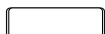
- ・ 、

メニューを切り替えます。

- ・ 

「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

- ・  (Space) キー

キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーのことです。各項目の設定値を変更します。

 を押すと、この他に使用するキーの案内が画面に表示されます。

■ BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。

次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 を押します。

「終了」(「Exit」) メニューが表示されます。サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、 を 2~3 回押してください。

2 次のいずれかの操作を行います。

■ 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、再起動する場合

1.  または  で、「変更を保存して終了する (再起動)」を選択し、 を押します。
2.  または  で、「はい」を選択し、 を押します。
BIOS セットアップが終了します。

■ 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、電源を切る場合

3.  または  で「変更を保存して終了する (電源 OFF)」を選択し、 を押します。
4.  または  で、「はい」を選択し、 を押します。
BIOS セットアップが終了します。

■ 設定を変更しないで終了する場合

1.  または  で、「変更を保存せずに終了する (起動)」を選択し、 を押します。
2.  または  で、「いいえ」を選択し、 を押します。
BIOS セットアップが終了します。

■ BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 を押します。

「終了」メニューが表示されます。

3 またはで「標準設定値を読み込む」を選択し、を押します。

確認のメッセージが表示されます。

4 またはで「はい」を選択し、を押します。

BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

5 またはを押して「変更を保存して終了する（再起動）」を選択し、を押します。

6 確認のメッセージが表示されたら、またはで「はい」を選択し、を押します。

読み込んだ標準設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。

BIOS のパスワードは Windows が起動する前の設定なので、Windows のパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

■ BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- スリープから元の状態に戻るとき（スリープ中に電源が切れた場合のみ）
- 休止状態から元の状態に戻るとき

また、BIOS のパスワードといっしょにハードディスクセキュリティを設定すると、ハードディスクの盗難による情報漏洩や不正使用を防止できます。

パスワードの入力を要求されるタイミングは、BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」で設定します。

- 使用しない
BIOS セットアップを始めるときにパスワードを要求されます。
- 最初のみ
パソコンの電源を入れたときにパスワードを要求されます。
- 毎回
パソコンの電源を入れたとき、およびパソコンを再起動したとき、パスワードを要求されます。

Point

- ▶ 「セキュリティ」メニューの「自動ウェイクアップ時」を「使用しない」に設定している場合「起動時のパスワード」を「最初のみ」または「毎回」に設定しても、Wakeup on LAN 機能などを使ってパソコンを自動的に起動する場合にはパスワードを要求されません。

■ BIOS のパスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンで BIOS のパスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

- パスワード設定時は、必ず次のことを行ってください。
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
 - ・ 「パスワードを変更する／削除する」(→ P.62) を印刷しておく
 - ・ 設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておく
 また、これらは安全な場所に保管しておいてください。管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます。
ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしてもパスワードの解除やストレージ内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。パスワードの管理には充分注意してください。
- 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。その場合は、**[Enter]** を押し、正しいパスワードを入力してください。
- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、次の状態になります。
「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。

■ パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

- 管理者用パスワード
このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード
このパソコンのストレージを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ストレージを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ストレージが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。

■ パスワードを設定する

パスワードを設定する方法を説明します。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 または で「セキュリティ」を選択します。

「セキュリティ」メニューが表示されます。

3 または で設定したいパスワードの項目を選択し、 を押します。

次のいずれかの項目を選択します。

- ・ 管理者用パスワード設定
- ・ ユーザー用パスワード設定
- ・ ハードディスクセキュリティ▶ドライブ n 用パスワード設定
※n に入る数字は機種により異なります。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

4 1～32桁までのパスワードを入力します。

- 入力できる文字種は半角英数字（a-z、A-Z、0-9）、半角スペース、半角記号（[] [¥] を除く）です。
- 入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。
- BIOS セットアップでは、次のような特殊文字をキーボードの刻印どおりに入力することができません。
 - 次の文字を入力する場合は、対応するキーを単独で押してください。

入力する文字	=		]	'	`
対応するキー	^	@	[	:	半角／全角

— 次の文字を入力する場合は、 を押しながらか対応するキーを押してください。

入力する文字	@	^	&	*	(	)
対応するキー	2	6	7	8	9	0

入力する文字	_	+	{	}	:	!	~
対応するキー	-	^	@	[	;	]	半角／全角

5 パスワードを入力したら を押します。

パスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。

6 手順 4 で入力したパスワードを再度入力して を押します。

- パスワードが一致した場合は、「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。
- パスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。 を押して、手順 3 からやり直してください。
- パスワードの設定を中止するときは、 を押してください。

7 を押して、設定を終了します。

8 BIOS セットアップを終了します（→ P.58）。

設定内容を保存して終了してください。

■ パスワードを変更する／削除する

□ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1 BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューから、変更したいパスワードの項目を選び、 を押します。

「パスワードを設定する」（→P.61）の手順 1～3 を行ってください。

2 設定してあるパスワードを入力し、 を押します。

新しいパスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 1～32桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、を押します。

パスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。

4 手順3で入力したパスワードを再度入力してを押します。

- パスワードが一致した場合は、「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。
- パスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。を押して、手順1からやり直してください。
- パスワードの設定を中止するときは、を押してください。

5 を押して、設定を終了します。**Point**

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。

□ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順3～4で何も入力せずに、を押してください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

■ メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップの設定値を標準設定値（ご購入時の設定）に戻して起動し直してください。

それでもメッセージが表示される場合は、手順 2 に進んでください。

2 周辺機器を取り外します。

別売の周辺機器やメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらを取り外し、パソコンの電源を入れ直して、動作を確認してください。それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、『取扱説明書<スタートガイド>』をご覧ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付け、パソコンの電源を入れ直して、動作を確認してください。また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

これらの処置をしても、まだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

■ メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージ一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

エラーメッセージ	対処方法
BOOT Failure 選択したデバイスから起動できませんでした。	起動メニューからデバイスを選択して、起動できなかったときに表示されます。  を押すと起動メニューに戻ります。起動デバイスが正しく接続されているか確認し、選択し直してください。または正しいデバイスを選択し直してください。
Bootable Device were not found. 起動可能なデバイスが見つかりませんでした。	起動可能なデバイスが見つからなかった場合に 표시됩니다。  を押すと BIOS セットアップが起動しますので、「詳細」メニューで「起動デバイスの優先順位」を選択して、起動可能なデバイスが表示されているかどうかを確認してください。
CPU Fan Error CPU ファンエラーまたは CPU ファンが接続されていません。	「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
Event Log area is full. No more events will be logged. To clear event logs, please enter BIOS Setup. イベントログの記録領域が一杯になりました。BIOS セットアップを起動して、イベントログを削除してください。	イベントログの記録領域がいっぱいになったことを示しています。  を押して BIOS セットアップを起動し、「詳細」メニューで「イベントログ設定」－「イベントログの消去」の順に選択して  を押してください。確認のメッセージが表示されるので、「はい」にカーソルを合わせ、  を押してください。
Press F1 to Resume Press F2 to Run Setup <F1> キーを押すと続きます。 <F2> キーを押すと BIOS セットアップを起動します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。発生しているエラーを無視して OS を起動する場合は  を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を変更する場合は  を押してください。
Invalid NVRAM Data NVRAM データが正しくありません。	NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。本メッセージが表示されているときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
Keyboard/Interface Error. キーボードエラーまたはキーボードが接続されていません。	キーボードコントローラーのテストでエラーが発生したことを示しています。キーボードが正しく接続されていることを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

エラーメッセージ	対処方法
NTLDR is missing Press any to restart システムの起動に必要な情報が正常に読み取れません。なにかキーを押してパソコンを再起動してください。	電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
System CMOS checksum bad システム CMOS のチェックサムが正しくありません。	CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。  を押して、BIOS セットアップを起動し、BIOS をご購入時の設定に戻してください（→P.59）。それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
System Disabled システムは使用できません。	不正確なパスワードが入力されました。電源ボタンを押して電源を切り、もう一度このパソコンの電源を入れてください。パスワードを忘れてしまった場合は、修理が必要になります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
Check Date and Time settings 日付と時刻の設定を確認してください。	日付と時刻の設定値が正しくありません。設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
Real Time Clock Error リアルタイムクロックのエラーです。	リアルタイムクロックのテストでエラーが発生したことを示しています。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。